

日蓮大聖人御書全集

でしだんなちゅう

ごじょう

弟子檀那中の御状

新版
866

でしだんなちゅう

べいじよう

弟子檀那中への御状

ぶんえい

ねん

がつ

にち

さい

もんかいちどう

文永5年('68)

10月11日

47歳

門下一同

だいもうここく

かんちようとうらい

じゆういつつう

しよじよう

大蒙古国の簡牒到来について、十一通の書状をもつて

かたがた

もう

そうろう

さだ

にちれん

でしだんな

るざい

しざい

方々へ申せしめ候。定めて日蓮が弟子檀那、流罪・死罪

いちじよう

すこ

おどろ

一定ならん。少しもこれを驚くことなかれ。

かたがた

べいこうこんもう

およ

し

方々への強言申すに及ばず、これしかしながら「しかも強

どく

ゆえ

にちれんしよき

そうろう

いてこれを毒す」の故なり。日蓮庶幾せしむるところに候。

おのおのようじんあ

すこ

さいし

けんぞく

おも

けんい

各々用心有るべし。少しも妻子・眷属を憶うことなかれ、權威

おそ

こんど

しやうじ

ばく

き

ぶっか

と

を恐るることなかれ。今度、生死の縛を切つて仏果を遂げし

たま

め給え。

かまくらどの

やどやのにゆうどう

へいのさえもんのじよう

やげんた

けんちようじ

鎌倉殿・宿屋入道・平左衛門尉・弥源太・建長寺・

じゆふくじ

ごくらくじ

たほうじ

じようこうみようじ

だいぶつでん

ちようらくじ

寿福寺・極楽寺・多宝寺・浄光明寺・大仏殿・長楽寺へ已上、

じゆういつかしよ

じゆういつつう

じよう

しよ

かんそ

そうら

十一箇所へ。よつて十一通の状を書して諫訴せしめ候い

お

さだ

しさいあ

にちれん

もと

きた

しよじようとう

畢わんぬ。定めて子細有るべし。日蓮が所に来て書状等

ひけん

たま

きようきようきんげん

披見せしめ給え。恐々謹言。

ぶんえいごねんつちのえたつじゆうがつじゆういちにち

文永五年戊辰十月十一日

にちれん

かおう

日蓮 花押

にちれんでしだんなちゆう

日蓮弟子檀那中